宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2023

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

建国記念の日奉祝中央式典

大祓詞で建国精神を回顧

明治神宮会館

令和5年、皇紀2683年の「建国記念の日奉祝中央式典」（主催＝日本の建国を祝う会、会長＝大原康男氏）が2月11日、東京都渋谷区の明治神宮会館で開催された。約500人が参加し、11か国の特命全権大使を含む22か国の在日外交団も参列。第一部の式典に続き、第二部では西岡和彦・国学院大学教授が『大祓詞』と建国の精神』と題し記念講演、第三部の奉祝記念和太鼓演奏では、清瀬上和太鼓保存会が和太鼓演奏『戦龍』を披露した。表参道では神輿と首都圏の大学ブラスバンド・子供鼓笛隊らが奉祝パレードし、約2千人が参加。沿道の人たちを楽しませた。

主催者挨拶をする大原康男会長＝2月11日、東京都渋谷区の神社本庁大講堂

午後1時、柴田勤副会長の開会の辞で奉祝中央式典が始まり、橿原神宮遥拝、国歌斉唱の後、主催者を代表して大原康男会長が挨拶した。

「神武天皇は2683年前の2月11日、大和国の畝傍山の東南の橿原の地で、天皇の御位にお就きになられた。以来この日は、我が国の基を固められた神武天皇のご事績を仰ぎ、日本人の民族精神を思い起こす日となって久しい。近隣諸国の軍事的脅威が高まる中、自国の安全と自らの生命を守るには、防衛体制の抜本的見直しと憲法改正を視野に入れた法整備が急務だろう」と述べ、政府主催の奉祝式典が行われるよう要望した。

来賓祝辞に移り、井上信治・自民党幹事長代理は「昨年、本土復帰50周年を迎えた沖縄を訪問された両陛下は戦没者慰霊とご遺族との懇談に臨まれ、お一人お一人にお声をおかけになられた。両陛下の温かい御心に尊崇と敬愛の念を強くする」と述べ、日本維新の会副幹事長の石井苗子・参議院議員は「日本は自然災害に加えて病原菌やウイルスにも悩まされ、神社を中心に災害を未然に防げるようお祓いを続けてきた。日本人が紡いできた皇室との絆を深めていくことも国会で議論する重要なテーマだ」と語った。最後にマルタ共和国のアンドレ・スピテリ特命全権大使が「他者への尊敬、勤勉さ、卓越性を目指す強い決意など、日本を偉大にしてきた価値観を今後も堅持し続けていかなくてはならない。建国記念の日は未来への行動を呼びかける日でもある」と祝辞を述べた。

岸田文雄首相はメッセージで「長い歴史の中で我が国は幾度となく大きな困難や試練に直面した。先人たちは、その度に勇気と希望をもって立ち上がり、幾多の奇跡を実現してきた。『建国記念の日』が、我が国の歩みを振り返りつつ先人の努力に感謝し、さらなる日本の繁栄を希求する機会となることを切に希望する」と述べた。

次いで、聖心女子大学2年の松浦史帆氏が決議文を朗読し、満場の拍手で採択され、大原会長と栗田副会長から自民党の井上幹事長代理と日本維新の会の石井副幹事長に手渡された。紀元節の歌の斉唱。百地章日本会議常任理事による聖寿万歳の後、小柳志乃夫理事が閉会の辞を述べた。

第二部では西岡和彦・国学院大学教授が『大祓詞』と建国の精神』と題し記念講演。内容の要旨は次の通り。

大祓詞は前半で建国の精神を明示し、我が国の命全権大使が「他者への尊敬、勤勉さ、卓越性を目指す強い決意など、日本を偉大にしてきた価値観を今後も堅持し続けていかなくてはならない。建国記念の日は未来への行動を呼びかける日でもある」と祝辞を述べた。

岸田文雄首相はメッセージで「長い歴史の中で我が国は幾度となく大きな困難や試練に直面した。先人たちは、その度に勇気と希望をもって立ち上がり、幾多の奇跡を実現してきた。『建国記念の日』が、我が国の歩みを振り返りつつ先人の努力に感謝し、さらなる日本の繁栄を希求する機会

奉祝記念講演を行う西岡和彦・国学院大学教授

祝辞を述べるマルタ共和国のアンドレ・スピテリ特命全権大使

松尾大社の節分祭に石見神楽

「恵比寿大黒」など奉納

京都市西京区

京都市西京区の松尾大社で2月3日の節分の朝、石見神楽が「種神楽保存会（島根県益田市）」によって奉納され、多くの参拝者が動きのある艶やかな衣装の伝統神楽を楽しんだ。

めでたいことに因む演目「恵比寿大黒」では、恵比寿が鯛を釣り上げるのに加え、参拝者に節分の福豆がまかれた。大国主命である大黒は恵比寿の父親で、二神のにこやかな笑顔と、神徳を体現するようなおおらかな舞に、人々の幸福を願う気持ちが表れていた。

他の演目「鍾馗（しょうき）」では、もともと中国の神である鍾馗が剣を持ち、コロナに見立てた悪鬼を成敗した。日本で鍾馗は、五月人形や疫神よけの人形に作られたりしている。鍾馗は、目が大きく、頬からあごにかけて濃いひげをはやし、黒い衣冠をつけ長ぐつをはき、右手に抜き身の剣を持つが、この演目では左手に疫神を祓う茅の輪をつかんで舞った。

「鍾馗」と「恵比須」は島根県益田市の無形民俗文化財に指定されており、2019年5月に認定された文化庁の日本遺産「神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽」の構成文化財にも選ばれている。

松尾大社は大宝元年（701）、勅命によって秦忌寸都理（はたのいみきのとり）が創建。主祭神は大山咋神（おおやまくいのかみ）と中津島姫命（なかつしまひめのみこと）の二柱で、中津島姫命は市杵島姫命（いちきしまひめのみこと）の別名。

同大社の背後には松尾山の巨大な磐座が控え、もとは古代の磐座信仰があったとされている。神代、八百万の神々が松尾山に集まった際に祭神である松尾大神が、嵐山の米を蒸し、松尾山から湧き出る水を使って酒を作り、神様に振る舞ったとの伝えがあり、中世から「お酒の神様」と言われ、醸造の祖神として人々の篤い信仰を集めている。

にこやかな笑顔で舞う恵比寿＝2月3日、京都市西京区の松尾大社

右手に剣、左手に茅の輪を持って悪鬼を祓う鍾馗

社説

日本近代史から見た国家と宗教

浄土真宗の活躍

明治4年から6年にかけて欧米12か国を視察した岩倉使節団は、全権の岩倉具視以下、政府首脳陣や留学生ら107人で構成され、日本近代化の政策に大きな影響を与えた。その使節団を一様に驚かせたのが、文明の先端を行く西洋諸国の人々の深い宗教心で、江戸時代の宗教政策もあり、日本人はそこまで宗教を信じていなかったからである。

一方、使節団が諸外国から強硬に抗議されたのは、王政復古を目指す維新政府が幕府の民衆統治を引き継いでいた「キリシタン禁制」で、その象徴が「浦上キリシタン」だった。伊藤博文がフランスから出した手紙により明治6年、政府はキリシタンの禁制の根拠になっていた高札を撤去するが、キリスト教に対する危惧は抱えたままだった。

神道国教化を目指し、神仏分離令を出した明治政府が恐れていたのは文明開化と共に流入してくるキリスト教の影響だった。津和野藩などに移されたキリシタンは、熱心な者たちほど国学者や神道家の説諭にも動じず、懐柔策や拷問でも信仰を捨てようとしなかった。彼らは反権力的ではなく、年貢も進んで納める模範的な農民であったが、こと信教の問題になると強固になるのが、じかに接した当事者たちを驚かせたのである。

キリシタン禁令の高札が掲げられていた時代、いわゆる潜伏キリシタンは建前として踏み絵を行い、葬儀は寺に頼んでいた。ところが、高札が撤去されると、彼らは仏式の葬儀を拒否し、神宮の護符を取り払い、仏像や位牌を捨て、日曜礼拝を行うようになった。

これらに対して政治的に打つ手はないと考えた政府は、天皇への素朴な敬愛の念に基づく神道国教化をより一層進めるとともに、宗教は宗教に任せるしかないと、国民の間に広く浸透していた仏教にキリスト教対策を委ねるようになる。

その主役を担ったのが、阿弥陀仏一仏信仰で一神教のキリスト教に類似し、一向一揆の歴史をもち、宗祖親鸞以来、僧の妻帯を認め、在家主義に重点を置く浄土真宗であった。倒幕側に資金援助し、維新政府と関係が深かった西本願寺は、西欧キリスト教の実態を調査するため島地黙雷ら優秀な若手僧侶を派遣し、彼らは明治5年にヨーロッパで岩倉使節団と合流している。同じ長州出身で木戸孝允と昵懇だった島地は、視察した西欧諸国の政治と宗教の関係を踏まえ、政府要人らと宗教論議を交わしたという。

明治の日本仏教にとって文明開化はキリスト教に加えて西洋哲学との出会いであり、近代哲学で仏教を読み直し、近代国家にふさわしい仏教へと変身させる歴史が始まった。内心の自由、生き方としての仏教の探究で、西洋で発達した個人主義の日本的受容でもあった。特に真宗では、明治の国づくりに歩調を合わせながら、キリスト教の浸透を防ぐことを目指していた。

もっとも、日本をキリスト教化することで近代国家を築けるとする人たちも多く、その代表がサミュエル・スマイルズの『セルフ・ヘルプ』を翻訳した『西国立志編』がベストセラーになった中村正直で、新渡戸稲造や新島襄、内村鑑三ら多くのキリスト者を輩出した。ところが、政府の危惧とは関係なく、年数を経るにつれキリスト教は影響力を失い、いわゆる日本教に吸収されてしまう。

大正6年に出した『出家とその弟子』がベストセラーになり、当時の若者を中心に親鸞ブームを巻き起こした倉田百三は、キリスト教や西田天香の一燈園に引かれながら、次第にナショナリズムに傾倒していった。民藝運動で知られる柳宗悦は、神学に引かれながら晩年は真宗に引かれ、妙好人に理想的な生き方を見いだしていく。

一方、明治の宗教政策をリードした真宗は次第に日本主義化し、昭和の軍国主義の時代を迎えると、従軍する門徒らへの教えもあって、親鸞主義は国家神道に習合するようになっていく。戦後、浄土真宗が反政府的なスタンスを取るようになったのは、そうした戦前の歴史の反省からである。

近代を超えて

宗教学者の末木文美士氏は中世仏教を専門にしながら近世仏教、さらには近代仏教の研究に重点を移している。それは、仏教界の動向を抜きに日本の近代史や近代思想史を論じることはできないからである。研究者だけでなく、多くの日本人が漠然と考えている仏教も、古来の教えではなく、明治になって見直された近代仏教であることは再認識されないといけない。

人の心を育て、社会を下支えするという宗教の役割からして、戦前の日本主義化は一概に否定すべきではなく、貴重な研究対象とし、その成果を次の時代に生かすことが望まれよう。その意味で近代を乗り越える営みが宗教界には求められている。

灯

「闇の中を歩む民は、大いなる光を見／死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。あなたは深い喜びと／大きな楽しみをお与えになり／人々は御前に喜び祝った。刈り入れの時を祝うように／戦利品を分け合って楽しむように。彼らの負う軛、肩を打つ杖、虐げる者の鞭を／あなたはミディアンの日のように／折ってくださった。地を踏み鳴らした兵士の靴／血にまみれた軍服はことごとく／火に投げ込まれ、焼き尽くされた。」（イザヤ書9：1―4）

長き苦難の歴史を経たイスラエル民族の如く、日本のキリシタンも3世紀にわたる厳しい迫害と弾圧を経験し、それでもなお密かに信仰を保ってきた者たちがいた。鎖国が解かれ、長崎に日本二十六聖人を記念する天主堂が献堂された。これを見た浦上の村人が聖堂を訪ね、招き入れた司祭につぶやいた。「ワタシノムネ、アナタトオナジ」。秘めてきた信仰を告白し、重ねて「サンタ・マリアの御像はどこ？」と尋ね、脇祭壇の聖母子像を確認した。西欧キリスト教世界を驚かせた「信徒発見」の一日。1865年3月17日の午後の出来事だった。（1）

天地

3月になると麦の生育を見ながら、田植えの準備が始まる。両足の指先を野焼きでやけどした天地子も、8割方回復したので、小麦の田んぼのあぜ際に生えた雑草に、背負いの噴霧器で除草剤を散布した。液剤に機器で約20キロ、2か月ぶりの重労働だ。見かねたのか、息子が手伝ってくれたのは怪我の功名かもしれない。もっとも、アルバイト代はしっかり受け取った▼今年、県の補助事業で取り組むのは田んぼダム。洪水対策を流域全体で行う事業の一つで、田んぼの排水口の上部に三角の落水口のある板をのせ、通常より多い水を田んぼに溜めようというもの。最近の流行で、農作業もSDGsに関連付けることが増えている。あぜからの水漏れを防ぐにはトラクターに付けた専用器具によるあぜ塗りが必要で、それにも補助金が出る▼県から支給される板は32センチから55センチまでの5種類、さらにあぜ塗りの距離を計算しなければならない。ところが、排水口の幅はまちまちで、130の田んぼを歩いて調べることに。次に、田んぼごとにあぜ塗りする箇所を調べ、地図の縮尺から原寸を計算すると約7千メートルに。さていくら補助金が出ることか▼トラクターが耕耘すると、シラサギがその後を追って歩く。はじけ出されてくるミミズや虫を食べるためで、彼らなりに農業と共生している。ネズミやカエルが出てくるとカラスがついばむ。そんなのどかな風景が、ウクライナ戦争による肥料の高騰などで消えないよう、知恵と力を尽くしたい。

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所 ■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二 東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話03（3353）2940 FAX03（5363）5182
e-mailreligion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀 エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話：03-6265-0852 FAX：03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078(882)9305 FAX078(801)0006

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
出雲井晶 著
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
（定価：本体2000円＋税）
日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国、その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
鳳明ビル102A
TEL03-3813-6344 Fax03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

新刊！
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
四六判296頁（本体1500円＋税）
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15
ラ リュミエール1F
TEL03-6657-9000 Fax03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋霊 著
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分。こんな苦では、自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
四六判158頁 定価1,365円（税込）
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042(751)2558 FAX042(754)1818

山喜房佛書林
神野富一著 A五判 五八〇頁 本体一六、〇〇〇円
補陀洛信仰の研究
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
福田亮成編 B六判 二九〇頁 本体五、八〇〇円
弘法大師聖句集成
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL：03-3811-5361 FAX：03-3815-5554